



# カンボジアの路上で暮らす子供たちに温かい家を！ ～「オークン (Orkoon) の会」～

苫米地 純子



プテアハウスの前で(最後列、帽子の女性が苫米地さん)

## <きっかけは留学生>

私はこの20年ほど『GIFOSS (ギフォス) の会』(群馬留学生交流会)で留学生のお世話をしていますが、留学生とのかかわりの中から生まれた会、それがオークン(クメール語でありがとう)の会です。

留学生生活を終え帰国を前にした留学生からからのお願い、そして彼の子供に対する熱い思いに心を動かされ、別々の場所で共にがんばろう!と、三つの活動が始まりました。

## <目的と活動>

- 1、 孤児院建設、運営(家族で暮らすような小さな家「プテアハウス」を2軒作りました)
- 2、 里親奨学金
- 3、 日本の青少年との交流

この3点を中心に、7人の日本人スタッフと4人の現地スタッフで、会員のみなさんのご協力を得て会を運営しています。昨年の現地訪問の際、6年目にしてやっとほんの少しずつではありますが、現地との信頼関係が築かれてきたのでは…と感じさせられ嬉しい思いで帰国しました。

現地での教育支援は、すぐ結果が出るわけではありません。息の長い活動を地道に続けることが大切とあらためて感じました。これからも常におたがいに対等であることを基本に肩肘はらず会を続けていけたらと願っています。日本からの支援が終了したら現地も終了とならないためにも。

### 「プテアハウス(みんなの家)」 の基本方針

- 1、 食…安心して三食食べられる
- 2、 住…屋根のある家で安心して寝られる。帰るべき家がある
- 3、 教育…基本学力(読み、書き、計算)を身につける。基本的な生活習慣を身につける

## <会を通じて共に生きるために>

共に明るく暮らす為、私たちはもう一度世の中の出来事に深く関心を持たなくてはと思います。「この地球上には、まだ飢えや貧困で苦しむ人々がたくさんいることを…。行きたくても学校に行けない子供達は何億人もいる事を、貧しさや過酷な労働で亡くなる人、戦争で命を落とす人が今もあとをたたない事を…。そして今私達に何ができるのか！と問われたら、それは関心をもつこと。皆が無関心でない世の中になる事を願ってやみません。私はこのオークンの会の子供達のすこやかなる成長をここ日本で楽しみながら共に歩んでいこうと思います。



### カンボジアを訪問した若いスタッフの声

◆カンボジアに行き始めて5年になりますが、プノンペンの変化にはいつも驚かされます。でもやっぱり好きなのは、だだっ広い土地に水牛がゆったり歩き、子供達が裸で駆け回る、変わらない美しい農村風景です。変わるものと変わらないもの…どちらもカンボジアの大きな魅力であり、大切にしたいと思っています。(20代のスタッフ・中澤麻紀)

◆カンボジアというと、貧しいという言葉で語られがちですが、この夏、訪問したプノンペンで出会った小学校の子どもたちや先生は、笑顔の素敵な人ばかりでした。また発展しつつある国という勢いも感じられました。経済的な豊かさだけでなく、こころの豊かさも兼ね備え、カンボジアも日本もお互い成長できるといいなと思いました。(30代のボランティア・田代由貴)



プテアハウスで子どもたちとおしゃべり

カンボジア教育支援 「オークンの会」

〒371-0026 群馬県前橋市大手町 2-5-10

国際学生援護会内

TEL 027-243-6322 FAX 027-243-2031

メール orkoon@air.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www16.ocn.ne.jp/~orkoonjp/>

設立 2004年4月

会員数 73名、協力者18名(2010.3.31現在)